※姫路城と伝説の剣豪

国宝姫路城は平成5年12月、奈良の法隆寺と共に、日本で初の世界遺産となりました。
シラサギが羽を広げたような優雅な姿から「白鷺城」の愛称で親しまれ、白漆喰層塗籠作りの白い城壁や、大天守と3つの小天守が連結された連立式天守が特徴です。

さまざまな仕掛けを備えた軍事要塞・難攻不落の城、姫路城。
しかし約400年間もの間、不戦の城としても有名です。
戦や戦争、災害からも回避している幸運の城でもあります。

姫路城は、最上部に刑部(長壁:おさかべ)大神を奉った刑部神社がある珍しい城です。
なぜ、城の最上階に神社が祀られているかというと、ある妖怪伝説が関係してきます。しかも、彼の有名な剣豪も関わっている伝説となります。

その昔、真剣の決闘を生涯何度も行い、一度も負けたことがなく、後世に「五輪の書」を残した最強の剣豪がいました。
ご存じ**剣豪・宮本武蔵**です。

木下家定という大名が姫路城城主だった頃の話です。
腕は立つものの、誰に仕えていなかった武蔵は、名前を変えて足軽の1人として奉公していました。

当時姫路城天守に妖怪が出るという噂があり、夜の見張り番はみんな恐れてしまいました。
これでは夜の見張りに支障が出てしまいます。ところが名前を変えた武蔵だけは、平気で夜の番を務めていました。
そんな様子を、もしや剣豪・武蔵ではないかと勘繰られ、正体がバレてしまい、妖怪退治を命じられます。

妖怪退治をすることになった武蔵は、ある夜、明かりを持って天守に上って行きました。
三階の階段に差し掛かった時、突然激しい炎が回りを取り囲み、地鳴りや雷が轟きました。
武蔵はすぐさま切りかかろうと太刀に手を掛けた途端、ピタリと炎は消え、轟音も止みました。
四階に登ると、先程のような炎と轟音が鳴りますが、恐れずに太刀に手を掛けると、やはり不可解な現象がピタリと止みました。
とうとう最上階までやってきた武蔵は、妖怪の正体を突き止めようと朝まで待ちますが、そのうち夜が明けてきます。
眠気に誘われ、うつらうつらしていると、どこからともなく女性の声が聞こえてきました。

聞けば、長壁姫(おさかべひめ)といい、城の守り神とのこと。
もともと、本丸のある姫山に刑部神社(おさかべじんじゃ)があったのですが、築城の際に移動させたため、妖怪が天守に住み着いたというのです。

しかし、武蔵が逃げずに登ってきたことで、妖怪は逃げ出したと姫は言います。
姫は、妖怪を追い出した礼として、武蔵に郷義弘(ごうのよしひろ)という名刀を与えました。
以上が、姫路城と宮本武蔵にまつわる伝説です。

時代は下り、長壁姫は再び現れる事になります。
天守の最上階にある神社を奉ったのは、池田輝政が城主の頃でした。
池田輝政は1601年から8年かけて、姫路城を中世平山城から大規模な近代城郭に造り替えた大名です。

その姫路城天守が完成する頃、不可解な出来事が起き、輝政本人も病に倒れてしまいます。
これを町の人々は刑部神社の祟りだと噂しました。
城には、輝政の症状を回復させる方法が書かれた手紙が届きます。
手紙には、天守内と「と」の門に刑部大神を祀る神社を建て、護摩祈禱を行う事が書かれていました。
その通りにすると、一時的ではありましたが、輝政の病状は回復したということです。

その時に建てた刑部神社が、今も天守内に残っているのです。
しかし結局、輝政は亡くなり、池田家は領地を変わることになります。

祟り話とは穏やかではありませんが、現在でも神社が残されているということは、当時本当に怪奇があったのかもしれませんね。

長壁姫は全国的にも有名で、江戸時代には全国の怪談話を集めた「諸国百物語」で紹介されたり、アニメ「ゲゲゲの鬼太郎」にも登場しています。

姫路城は難攻不落の守備力の高い城でしたが、不戦の城としても有名な城です。
長い歴史の中で一度も敵に攻め込まれる事もなく、幕末の争いの時も無血開城し、明治の廃城令も免除され、第二次世界大戦時も姫路空襲で天守に焼夷弾が落下しましたが、なぜか発火せず城の焼失は免れました。落雷なども無く、阪神大震災でも大きな被害は出ていません。
まさに幸運の城！昔から現代にいたるまで、女神に守られているからかもしれません。